



チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第33回「9月の日経平均株価の動きについて」

今年も3分の2が終わり、来週から9月に入ります。9月末は日本では年度の中間期末であり、欧米では第3四半期末となります。年度の一区切りとなるため、9月の株式市況は乱高下する場合があります。過去の9月の日経平均株価の騰落率を顧みて、今年の年末までの動きを考えてみました。

～日経平均株価の9月騰落率～

私は、前職の大和投資信託委託株式会社（現大和アセットマネジメント株式会社）でファンドマネージャーとなった1988年11月以降いろいろな指標をノートにつけてきました。日経平均株価も毎日つけてきましたが、その記録を使って1989年以降2023年まで35年間の9月の騰落率を調べてみました。裏面グラフ1をご覧ください。このグラフはそれぞれの年の8月末から9月末までの1か月間の騰落率を棒グラフにしています。35回中、騰落率がプラスになったのは15回、マイナスになったのが20回でした。プラスとなった15回の平均値はプラス4.5%、マイナスとなった20回の平均値はマイナス5.1%でした。また、35回の9月の騰落率の総平均はマイナス1.0%でした。やはり9月は期末を控え、投資マインドが落ち込む時期なのかもしれません。このように申し上げると9月は投資しないほうが良いと思われるかもしれませんが、投資の原則は「安い時に買って高い時に売る」です。そこで10月以降年末までの騰落率を見てみましょう。

～日経平均株価 10月～12月 騰落率～

裏面グラフ2をご覧ください。このグラフは、先と同じように、それぞれの年の9月末から12月末までの3か月間の騰落率を棒グラフにしたものです。35回中プラスとなったのが23回、マイナスとなったのが12回でした。明らかにマイナスとなった回数が少なくなっています。プラスとなった割合は65.7%、ほぼ3年に2回はプラスとなっています。ではプラスとなった23回の平均値はいくらだったのでしょうか？その騰落率は、プラス9.2%でした。一方、マイナスとなった12回の平均値はマイナス9.8%でした。マイナス幅が多くなっていますが、その要因として2008年のリーマンショックや2018年の米中対立の先鋭化による企業業績不安などで秋以降日経平均株価が急落したことが挙げられます。35回の10～12月の騰落率の総平均は、プラス2.6%でした。10～12月の時期は下半期のスタート時期であり、また新しい年の準備段階の時期でもあるため、調整した株式市況への物色意欲が強くなる時期であるかもしれません。このように、過去35年間の9月以降の動きを見てきましたが、値下がりしやすい9月は年末から翌年に向けての準備する時期と考えるのが良いと考えます。

今年米国大統領選挙の年であり、選挙戦に絡む経済統計の見方や政策論争などで米国をはじめとする株式市場はこれから乱高下する可能性は高いと思いますが、市場の影響を受け良好な資産の価格が値下がりしている状況は投資をする一つの好機と考えられます。

先週末に開催されたジャクソンホール会議で、パウエルFRB議長は9月のFOMCにおいて政策金利の引き下げを示唆しました。これは金融政策面で米国景気に目を向ける考えに変わってきており、株式市場への風向きが向かい風から追い風に変わったと思います。もちろん株式市場を取り巻く環境は複雑で急変することもあります。それらに臆することなく長期投資を行うことが重要であると考えています。さて、今年の9月はどのように動くのでしょうか？そして10月以降は？ 注目です。

来週9月6日のウィークリーレターにつきましては、社内研修などのため休刊とさせていただきます。

9月13日以降は通常通り発刊致します。引き続きご愛読いただきますよう宜しくお願い致します。

